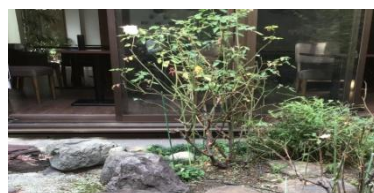


第10回「やまだ塾」

昨日6日、八尾で「やまだ塾」を開催した。昨年12月12日に始めて、今回で10回になる。住民投票で「大阪市存続」をめざして活動した人を中心に塾を続けてきた。コロナ禍でオンライン開催もあったが、こうして10回も継続できて、参加者に感謝したい。



今回は若者たちによる「ランチ会」がお休みなので、ゆっくり庭を歩いてみた。石庭をじっくり眺めていると、なんだか心がなごんできた。大阪市を離れて八尾で開催しているのは、心がなごむ庭の見える会場を格安でお借りできるからだ。



いつものように、まず私から話題を提供した。前回の塾で議論になった介護労働の賃金の低さについて、社会的使用価値や社会的有用労働という視点から問題をなげかけた。介護や保育などは、制度改革だけでなく、社会的有用労働としての価値を高めて、賃金などの待遇改善を図るべきではないか。介護職として働く参加者は、介護をどのように評価するか、介護の「質」そのものが問われていると述べた。介護の問題は継続的に議論していきたい。

先の衆院選について、私なりの「とりあえずの感想・コメント」を3点ほど指摘した。自民党の単独過半数、与党の絶対安定多数、「自公連立」をどうみるか。「野党共闘」の評価と立憲民主党の今後。とりわけ大阪で顕著であった日本維新の会躍進をどうみるか。選挙後に危惧している動きとして、維新が自公に対して改憲や「大軍拡」をけしかけ、その推進役になるのではないか。

自民党の政権公約で、防衛力の大幅強化をめざし、防衛関係費を国内総生産(GDP)比2%以上に設定し、敵基地攻撃能力の保有を重点政策に盛り込んでいる。GNP比2%以上ということは、防衛関係費が10兆円を超えることになり、世界有数の「軍事大国」になる。選挙後の政界再編、来年の参院選に向け、改憲や「大軍拡」と維新の動きに目が離せない。

参加者から衆院選結果について、感想など多くの発言が続いた。自公「選挙協力」の実態、創価学会の動向として、公明は候補者のいる小選挙区に全力投球している。大阪で自民が全敗した一方で、公明は4人全員が当選している。「自公連立」政権のきちんとした検証評価が求められる。野党共闘の評価については、今回だけでなく中長期的な視点が大切なのではないか。維新は「改革」を標榜するが、具体的なことは言わない。一見すると分かりやすく、宣伝もうまいので大衆うけする。若者の政治に対する意識、大阪での取り組みなどについても問題提起された。多くのことを学んだ塾であった。

(2021年11月7日)